

通信制高生が「会社」体験

6日・長岡の米百俵まつりにスイーツ店

売り上げ目標・役割分担…「社会」を学ぶ

不登校経験などさまざまな背景のある通信制高校の生徒が「会社」をつくり、6日に長岡市中心部で開かれる「米百俵まつり」に出店する。そんなキャリア教育の授業が、同市のサポート校で行われている。生徒たちは予算をもとに自ら売り上げ目標やメニューを決め、役割ごとに準備を進めている。



出店メニューを話し合う「社長」の鰐淵陽和さん（手前中央）と「副社長」の片桐七瀬さん（同右）＝長岡市大手通2丁目

9月末、長岡市の生涯学習施設。私立通信制高校と連携するサポート校「葵高等学院」長岡校の約35人が、小さなパンケーキの試食をし、感想を紙に書いていた。

「甘すぎる」「ラスクっぽくなる？」生徒たちは話し合いながらメニューやレシピを見直し、ハチミツとタルタルソースの2種類のパンケーキサンド（各300円）を出す方向になった。

同校では卒業後に社会に出る際に必要なことを学んでもらおうと、2011年から毎年、米百俵まつりに果物やパンケーキなどスイ

ーツの店を出している。今年9月初めから準備に取りかかった。生徒でつくる組織を会社に見立て、全体を統括し経理も担う「社長」や調理部、広報部といった役割別に「部長」を置いた。材料費などを考慮しつつ、売り上げ目標を約7万5千円と決めてメニューを検討してきた。

「大変だけど、ふつうの学校じゃできない体験ができている」副社長で3年生の片桐七瀬さん(18)は、今年で3回目。他の生徒一人ひとりに仕事の進み具合を聞くなど、社長の手が回らない点に心を配る。

社長で2年生の鰐淵陽和さん(17)は、学習面についていけず、別の高校を中退して今年4月に入校した。社長に指名され、初めての経験に戸惑いながらも出店事業者の説明会に出たり、人練りの関係でパンケーキに砂糖をまぶす作業をなくす決断をしたりと奔走してきた。頼み事は苦手だったが、仕事を人にふることも覚えた。

中学時代、周囲の目が過度に気になり、友人関係に負担を感じた。家族に当たる自分が嫌いになり、保健室登校を経て、やがて学校に行けなくなった。時間に余裕のある通信制高校に進むと、アルバイト先など様々な人間関係ができ、相手も自分も大切にしようと思えるようになった。いま、まとめ役を務めることについて「昔では考えられない。私に向いているのかも思うけど、人の役に立ちたい」。

米百俵まつりは6日午前11時半～午後5時、長岡市大手通周辺で開かれる。(高浜行人)

アルビBBBにタニタの食事

プロバスケットボールBリーグ1部(B1)の新潟アルビレックス

族向けの食事セミナーの開催やレシピの提案もする。



「逆さ妙高」守れ スイレン除去中 いもり池 妙高市関川の「いもり池」

池のスイレンは1975年ごろに移植されたと考えられ、その後旺盛な繁殖力で池の水面のほとんどを覆うようになり、ヒツジグサやヒルムシロなどが在来種が